

海外の浄土真宗事情

第12回 ロサンゼルス別院の沿革と現況

一九〇五（明治三十八）年にロサンゼルス郡内に住む日本人は凡そ二万五千人であったと推定される。一九一七（大正六）年頃までは、写真結婚の影響もあり、日本人の人口はさらに増加していた。当時、ロサンゼルス市で消費される野菜の七十五％は日本人農業者が生産していた。日本人の人口増加に伴い仏教会を作ろうという動きが盛り上がってきたのは一九〇五年前後のことである。

一九〇五（明治三十八）年十月、これらの運動が具体化し、同年八月に北米仏教団の監督として、日本から派遣されたばかりであった内田光融師を正式に開教使と仰ぎ、南カリフォルニア仏教会が創設された。同じ頃、ロサンゼルス市には、南カリフォルニア仏教会の他にロサンゼルス仏教会と中央仏教会が創設され、これらの仏教会は大いに栄えていった。ところが、各仏教会が栄えれば栄えるほど、お互いに競争心が高じて、終には、お互いに反目し合うようになった。そのような事態を鎮静し、まとめるべく

本山より龍谷大学学長の園田宗恵師が派遣された。園田氏と有縁の方々の親鸞人のみ教えを一人でも多くの方にとの願いにより、一九一七（大正六）年九月三十日、三仏教会の合併が正式に承認され、ロサンゼルス本願寺仏教会が創設された。

新たに創設されたロサンゼルス本願寺仏教会は、ジャクソン街にある大和ホールを借用し、一九一七（大正六）年十二



大和ホール（1917年-1925年）



ロサンゼルス別院旧寺基（ロサンゼルス本願寺仏教会）（1925年-1969年）

月八日・九日に入仏慶讃法要を勤修した。両日ともに百名を超える稚児行列をだし、その中には白人の楽隊も加わり、凡そ千五百人の参拝者と共に盛大な法要を勤めたことは南カリフォルニアにおいては初めての試みであった。
大和ホールでの入仏慶讃法要以前に早くも、ロサンゼルス本願寺仏教会の永久

的寺院を建てようという計画があった。仏教会の繁栄と著しい発展に伴い、それから五年後の一九二二（大正十一）年五月に新本堂建築会議が招集され、二通の手紙が本山に提出された。その一通は、新本堂建築完遂の暁に仏教会を別院へと昇格する要請と、他通は新本堂建設に際しての経済的援助の要請であった。同年八月二十二日に、新本堂建設案が理事会において正式に可決され、第一街とセントラル街の角（現全米日系人博物館）に新本堂を建築する運びとなった。
ロサンゼルス本願寺仏教会が本山に要請していた別院昇格は一九三一（昭和六）年六月のことであつ



ロサンゼルス別院旧本堂における最後の法要



海外の浄土真宗事情



現寺基にかかる起工式

た。米国における最初の別院が本派本願寺ロサンゼルス別院として誕生したのである。一九三四（昭和九）年までには千五百名の門信徒を擁し、別院の称号にふさわしい大規模な寺院となっていた。日曜学校、仏教青年会、仏教婦人会等が組織され、別院は教線を拡大し、ハリウッド、ガーデナ等、二十もの各地で定期的に礼拝と集会を開いた。当時、日曜学

校には、千二百二十名の生徒が参拝していた。その他、数えきれない程の布教所があり、会場が可能であれば、どこでも特別法要が勤修された。このようにして、別院は南カリフォルニアにおける中心的寺院としての役割を担った。現在、南カリフォルニアには、別院の他に十一の仏教会が存在する。いずれも一九三〇年代に別院を中心として一世パイオニアたちが布教所として仏法の種をまき、お念仏のお味わいが子や孫へと伝わり、きれいな白蓮華が咲いた布教所が独立寺院となったのである。

ロサンゼルス別院は二〇一六（平成二十八）年度に別院昇格八十五周年慶讃法



現寺基落成慶讃法要（1969年11月16日）

要を御内陣総修復慶讃法要と共に勤めた。二〇一七（平成二十九）年度には日曜学校百周年、二〇一八（平成三十）年

情報コーナー



現在のロサンゼルス別院

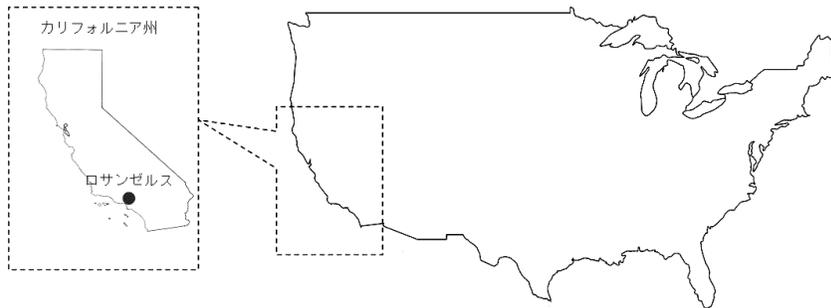
度には仏教青年会及び仏教婦人会の百周年を迎える。そして二〇一九（平成三十一年）年度には、寺基移転五十周年慶讃法要が勤修される。一九三二年の別院昇格に伴い建立した新本堂の所在地であった第一街はロサンゼルス市によって拡張計画が進められ、寺基移転を余儀なくされることとなる。そのことを機縁として、別院とその組織団体が発展することとなり、一九六九（昭和四十四）年、より大きな礼拝場所と施設を建立することができたのである。

このように一世パイオニアたちは、自分たちの子どもたちにもお念仏の日暮らしが必要であると痛感し、その目的実現のために努力を惜しまなかった。戦争により経験したあらゆる障害を乗り越えるための、様々な献身と自己犠牲が南カリフォルニアにおける今日の仏法興隆をもたらす大きな要因となった。

ロサンゼルス別院は一世パイオニアたちが護り伝えてこられた愛山護法の念を継承するとともに益々、仏法興隆・念仏

繁盛するよう日々、御法義をお取次ぎさせていただくご縁づくりをさせていたただくところである。

（本派本願寺羅府別院 高田興芳）



ロサンゼルス別院